# 要　約

本論文は、社会生態学的アプローチの立場から、他者からの排斥によって生じるネガティブ情動および状態自尊心の低下と、社会環境構造との関係について検討した。具体的には、社会の関係流動性―ある社会や社会状況における、新しい対人関係を形成できる機会の多さ―に着目し、人々が被排斥によってネガティブな情動を感じる程度には社会差が見られないものの、状態自尊心の低下量には社会差が見られると予測し、その検証を行った。先行研究によって社会の関係流動性が異なると示されている日本と米国の大学生を対象に、場面想定法を用いた質問紙による国際比較実験を行ったところ、予測は支持された。すなわち、他者からの被排斥状況を想像した際にネガティブな情動を感じる程度は日米で同程度である一方、状態自尊心を低下させる程度は日本人よりも米国人の方が大きいという結果が得られた。これらの結果は、社会的排斥時に生じる人間の心理・行動傾向を扱う際、彼らを取り巻く社会環境という観点から検証することの重要性を示している。